

20230617 名古屋の旧町名を復活させる有志の会

# 名古屋地名ものがたり

## 目次

- 地名を勉強して気がついたこと
- どうして地名は変わるのか
- 地名はどうやって付ける
- 失われた地名をどう残すか
- 4つのウソ検証

OAS / S都市研究所 杉野尚夫

## 地名を勉強して気がついたこと

- 地名に関する専門家がない
- 地名は町名だけでない→駅・バス停名、交差点名、通称地名など
- 地名はどんどん変わる
- 地名は長いあいだに熟成する
- 地名をつけるときに様々な工夫、思いがある
- 失われた地名の保存に工夫しているところがある
- 地名の読み方は結構いい加減だ  
一方で
- 地名の由来などにウソが作られる
- ウソを流布して儲ける人がいる

文献の徹底調査(一次資料の確認)、現地確認  
『名古屋地名物語』を執筆、同人誌へ投稿  
そのうちの一部を『名古屋地名ものがたり』出版

## どうして地名は変わるのか

- 1 近代以前の地名変更  
制度の変革(713年『好字二数字化令』など)  
支配者の交替、縁起や願望など
- 2 合併  
明治の大合併 中央集権国家体制の基礎  
昭和の大合併 地方自治制度の確立  
平成の大合併 地方分権の推進と行財政改革
- 3 耕地整理・区画整理など都市開発  
名古屋の場合、市域の70%の町名が変更  
様々な工夫が
- 4 住居表示制度  
「地名殺し」と言われて  
多数の歴史的な地名が消滅
- 5 その他  
・施設ができた ・駅名、バス停名、交差点名 ・通称

## 住居表示制度の後遺症の例

### 御器所騒動 御器所は「ごきしょ」といった時期がある

- 昭和47年1月 「御器所一丁目～御器所四丁目」に「ごきしょ」のふりがなをつけて市議会可決、市県告示
- 平成11年2月 街区表示板再整備のため御器所一丁目～御器所四丁目「ごきしょ」とふりがなをつけた街区表示板を取り付け

### ➡ 地元騒然

地元からの要請を受けて、市は総務省と協議。  
再度の町名変更の手続きをとることになった。

- 平成14年1月 町名・町界審議会開催  
平成14年2月 市議会で町名変更可決

30年ぶりに「ごきしょ」から「ごきそへ」



## 地名はどうやって付ける

### 1 合成地名

いろは町、遠若町、八熊通、一社、猪高町など

### 2 広域地名(僭越地名)

愛知町など

二女子村の熊野神社  
五女子村の八剱社

### 3 識別地名・隣接地名・方角地名

名東区など

### 4 借用地名

丸の内、千代田、新宿、大須など

### 5 公募地名

自由ヶ丘、金城ふ頭、緑区など

昭和14年「おうごんどおり」

平成28年「こがねどおり」

### 6 瑞祥地名(賀名、希望、キラキラネーム)

自由ヶ丘、希望ヶ丘、光が丘、星ヶ丘、黄金通など

## 地名はどうやって付ける2

### 7 記念地名(人名やできごとをつける)

平手政秀→平手町、八代町、駒止町(北区)……本拠地

藤原師長→師長町(瑞穂区)、琵琶里町、白菊町(西区)

安倍晴明→清明山(千種区)……蝮封じの伝説

下方貞清→下方町(千種区)……上野城主

張振甫 →振甫町(千種区)……居住

黒川治憲→黒川本通(北区)……黒川の開削

成瀬正成→隼人町・隼人・藤成通(昭和区)……隼人池の開発

津金文左衛門→津金(港区)……熱田前新田の開発

平野千代→千代が丘(千種区)……土地の寄付

※ 現存しない町名



「乗鞍(じょうあん)」から「乗鞍(のりくら)」へ



バス停は昔のまま

常安

「じょうあん」を学校名に残す

ウソ①

鶴舞はもともと「ツルマ」だった

ツルマ説の創作

- ①もともと「ツルマ」or「水流間」or「ツル間」という字名(あざめい)があった。
- ②公園創設の際に「鶴舞」という漢字を当て、「鶴舞公園(つるまこうえん)」とした。
- ③国鉄が中央線鶴舞駅の読みを「ツルマイ」としたので「ツルマイ」が広まった。
- ④鶴はもともと「水流(つる)」であり、ツルマは「水流間」あるいは「鶴間」とすべきだった。

この説をつくって流布した人々

鏡味完二、山口恵一郎、谷川彰英、大塚英二など

反証1 江戸時代にすでに「鶴舞」という地名があった

『尾張徇行記』

尾張藩士樋口好古が寛政4年(1792)から文政5年(1822)まで31年にわたって記した地誌。

一 龍興寺書上帳「境内三反二畝御除地○寺東一畝三反八畝十六歩御除地○松林一町御除地、此内一畝新雨池違井一ナル三畝八明和四亥年洪水二門前雨池決潰シテ池一ナリシ故、後田一開墾ス、六反八安永三年依願富二ナル、残テ三反五畝八於今松林ナリ○鶴舞池田七反五畝十六歩御除地、是八門前弁才天御手流ノ地、正徳三己年御代官村瀬彦左衛門時、新雨池一ナリシ故、換地トシテ如此下サルト也

一 宗円寺書上帳「境内二反三畝十九歩○鶴舞田三反一畝十六歩御除地、是八正徳三己年、此寺ノ境内ニテ新雨池ヲ穿チシ換地トシテ、田所如此下サルト也

反証2 明治15年に、西鶴舞、東鶴舞という字名があった  
その読み方は「つるまい」だった  
また「ツルマ」という字名は存在しなかった

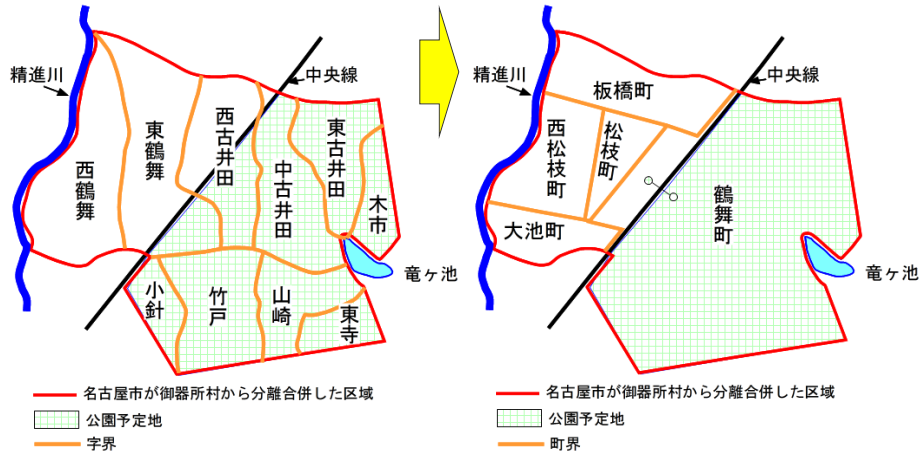
『明治十五年愛知県郡町村字名調』という貴重な資料がある。明治15年時点の愛知県下の全町村の小字名が網羅されており、かつ読み方がつけられている。これによれば、愛知郡常磐村(当時御器所村は「常磐村」といった)の字名として「西鶴舞(にしつるまい)」「東鶴舞(ひがしつるまい)」が記載されている。

明治15年には、「鶴舞」という字名はすでにあったし、その読み方も「つるまい」だった。さらに「ツルマ」という字名は存在しない。

北	西	念	都
キ	ニ	ネ	ツ
タ	シ	ン	ツ
ヤマ	ル	グ	シ
マ	マイ	ッ	マ
山	舞	佛	島
北	東	亥	島
キ	ヒ	イ	シ
タ	シ	ホ	マ
ヤマ	ル	ウ	ノ
マ	マイ	方	キ
山	舞	退	島
前	舞	方	退
東	西	天	崖
ヒ	ニ	テ	シ

鶴舞公園の敷地となったところには、字「鶴舞」はほとんど含まれていない。今、市民が「鶴舞」と認識しているところは、実はもともと「鶴舞」ではなかったところなのである。

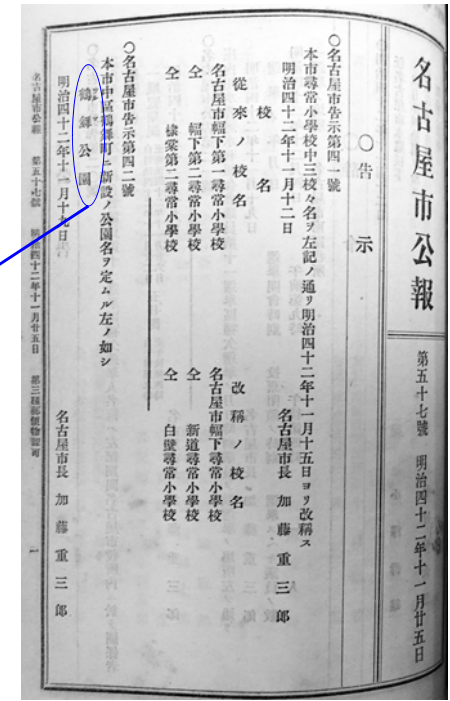
なお、鶴舞公園の敷地の町名は、現在「鶴舞一丁目」であり、中央線から西側の町名は全部「千代田二丁目」となって、これらの町名は現存していない。名古屋大学病院の敷地のみが「鶴舞町」として残っている。



なぜ公園名がつるま公園となつたか

→ ちょっとした間違いなのでは？

鶴ツル  
舞マ  
公園



「鶴舞」は「水流間」説は本当か

鏡味完二は、日本の地名研究をリードしてきた大御所であるが、彼は、南九州に「ツル」という地名が大量にあり、それを「水流」と表記していることに着目して、全国の「ツル」地名を調査し、「ツル」地名の大部分が水の流れに関連した場所につけられていることを明らかにした。

ところが  
南九州 ツル=水流  
それ以外 ツル→水流はない  
鶴が多い

「ツル」地名の分布

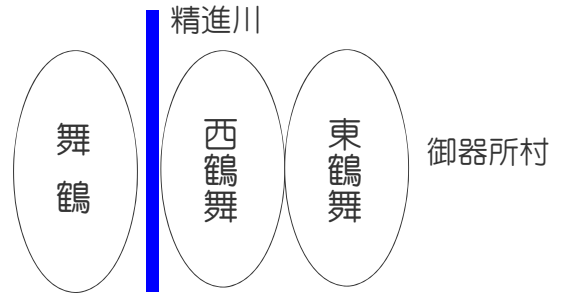


鏡味完二著『日本地名学』

もう一つの情報

明治15年の字名  
前津小林村

結局、ここには鶴がいたんじゃないか？



ウソ②

今池は「馬池」だった

区役所のウソ

今池交差点にある説明板



今池は、東西100間、南北60間、面積6千坪余の池で、江戸時代には古井村の水田およそ32町歩の灌漑用水として重要な役割を果たしていた。この池では鮒や鰻が獲れ、美味だったという。

大正10年に千種耕地整理組合が設立され、一帯の住宅地化とともに、灌漑用水としての今池はその役割を終え、水を抜かれ、土手を観覧席にして草競馬が行われることがあった。その後自動車の運転練習所になったこともあったが、昭和12年に名古屋市第二高等小学校が建てられ、戦後、今池中学校となった。

池を埋める際は、土手を崩して埋め立てができたというから、かなり浅い池だったようだ。浅いことが逆に子どもたちの水死事故を頻発させたものか、犠牲者を供養する地蔵が今池中学の南門の前に立っている。



今池地蔵



大正時代の今池

今池は「馬池だった」と主張する文書

■今池は今池新田を灌がいのための溜池であった。飯田街道の伝馬用の馬をこの池で水浴させることが多かったので、『今池』が『馬池』といわれるようになった。

(千種区役所発行『千種区史』昭和62年)

■徳川時代、伝馬用の馬をこの池で水浴させたことから『馬池』と呼んだ。それがいつのまにか『今池』という呼び名に変わった。

(千種区役所発行『ちくさ』昭和61年)

■今池といっておりますのはな、以前は今池とは言わなかったんです。つま池と言ったんです。「まいけ」「まいけ」と言ったんだが。

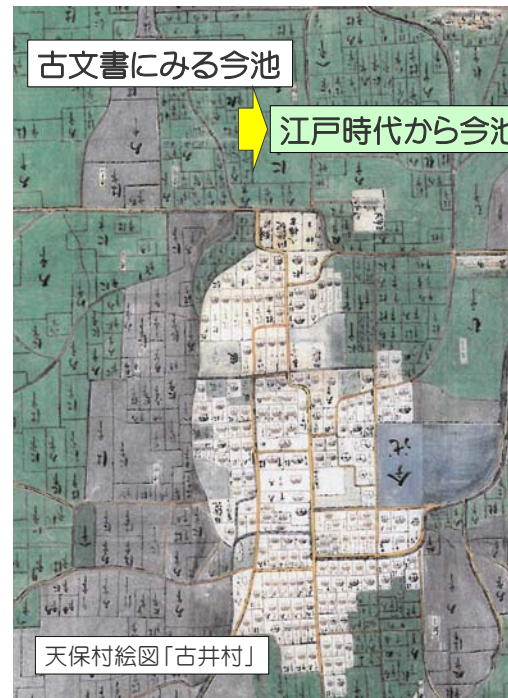
(『千種小学校創立88周年記念誌』昭和36年)



今池交差点の馬群像も誤解を助長している

古文書にみる今池

江戸時代から今池だ!



天保村絵図「古井村」

一雨池 三ヶ所 公儀より修葺。  
内 まむし池 松元池 今池  
『寛文村々覚書』(1670年)20  
『尾張徇行記』(1792~1822年)

ウソ③

名古屋は「なごの(那古野)」がはじまり

なごや  
那古野神社 → 「なごの神社」と思い込んでいる名古屋人が多い



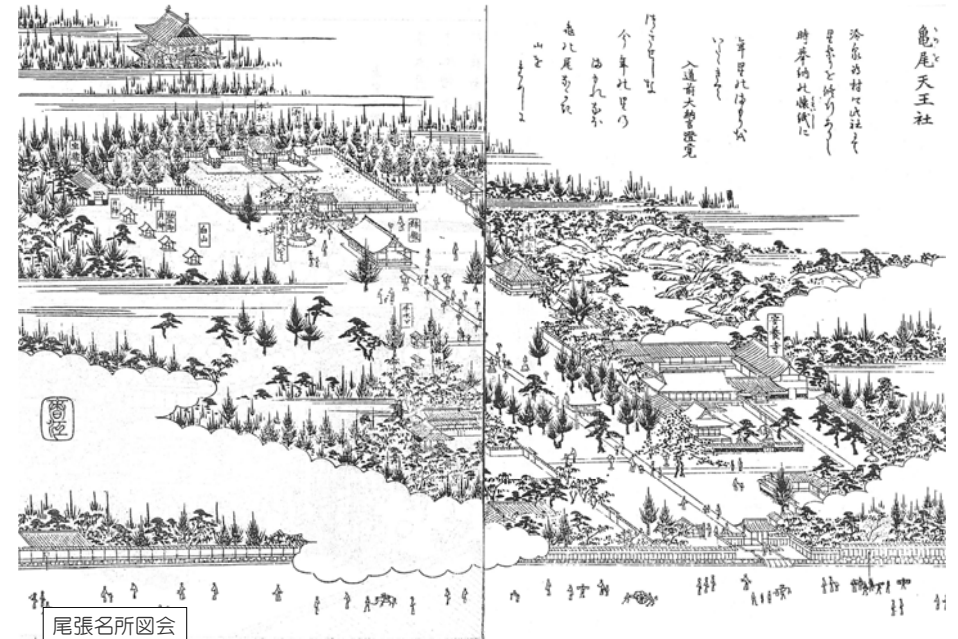
亀尾天王社→須佐之男神社→那古野神社

名古屋城の三の丸の位置に、築城以前から、亀尾天王社(別当寺として亀尾山安養寺天王坊)と若宮八幡社が並んでいた。

慶長15年(1610年)、名古屋城築城に際して、これらを城外へ移転させるため、その是非を神籤により神慮を伺った。結果、若宮八幡社は「可」となったが、天王社は何度神籤を引いても「不遷」となったため、名古屋城鎮守の神、名古屋産土の神と崇め、移転を中止した。

亀尾天王社は、明治維新後、社号を牛頭天王から須佐之男神社と改め、安養寺を廃して神職を置いた。それまで天王社は神職を置かず、安養寺の僧が神社を運営していたことがわかる。

明治9年に、名古屋鎮台を設置するために、西区茶屋町(現在地)に移転、明治32年、那古野(なごや)神社と改称し、現在に至っている。今、多くの市民が「なごの」神社と誤読しているが、「なごや」神社が正しい。



## 那古野はなごやと読む

昭和8年、岩崎文庫(のちの東洋文庫)所蔵の『江家次第』の紙背文書に「建春門院法花堂領尾張国那古野庄領家職相伝系図」が記されているのが発見された。

この紙背文書に書かれた相伝系図によると、那古野庄は小野法印顕恵が開発した荘園であり、顕恵が後白河天皇の女御で高倉天皇の生母建春門院へ寄進した寄進型荘園であることがわかる。

このことから、那古野庄の成立は12世紀後期の後白河院政期、建春門院の院号宣下(嘉応元年1169)前後から顕恵の没年安元元年(1175)までの間と推定されている。

この文書にあらわれる「那古野」は、どう読まれたのか。その後の文書などには、那古屋、名古屋、名護屋の文字が使われるようになる。また金石文字(刀の銘や梵鐘などに書かれた文字)には名郷野、名護野、奈古野、奈姑屋、名児屋、名古屋、名残谷、名古耶、南護耶などがみられるが、これらの文字に共通する読みは「なごや」しかないから「なごの」ではなかったことが確実である。

近世には、名古屋と名護屋の両方がよく使われるようになり、明治になって監察より名古屋の文字に統一するようとの命令が出て名古屋に決まった。

## 迷惑な町名「那古野(なごの)」の経緯

江戸時代、名古屋城の西北に名古屋村、その南側に広井村があった。名古屋村は美濃路を挟んで南北に分断されていたため、明治11年、上名古屋村と下名古屋村に分離した。

明治22年には下名古屋村と広井村が合併して那古野村が設置された。この読み方は「なごや」村である。

那古野村は明治31年に名古屋市に合併されて消滅し、大字下名古屋と大字広井となった。

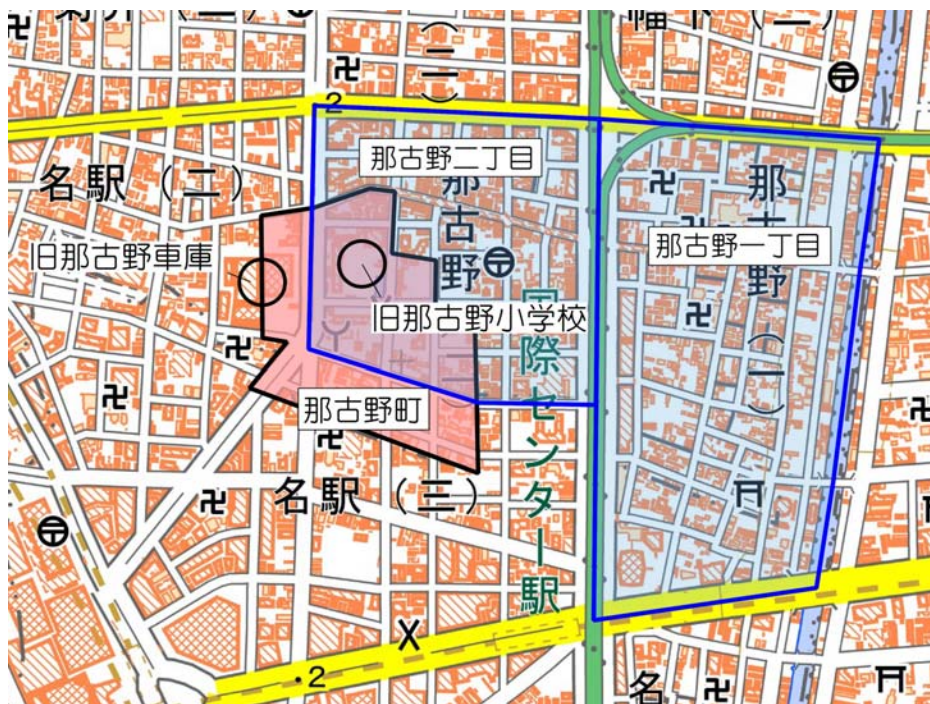
明治34年4月17日に、大字下名古屋と大字広井の一部により那古野町が新設された。この時に「なごの」町と読ませたらしい。

停留所那古野町(なごのちょう)  
那古野(なごの)車庫  
那古野(なごの)小学校



那古野(なごの)の知名度アップ

昭和52年から56年にかけて、住居表示により那古野一丁目、二丁目、三丁目が新設された。那古野町の一部が那古野二丁目に編入され、残りは名駅二・三丁目となった。



## ウソ④

### 稲永は「いなえ」

稲永新田は明治11年に稲富(いなどめ)新田と永徳(えいとく)新田が合併してできた。読み方は、『明治十五年愛知県郡町村字名調』に「いなえいしんでん」とあるので、これが本来の読み方である。

稲富新田は元々稲留新田と書いたとの説もある。「留」を「富」という雅字に変えたものか。文政3年(1820)栗田兵部により開発され、面積は62町歩。

永徳新田は文政9年(1826)に熱田下総守によって開発された。面積は22町歩余。



尾張志付図愛知県図より



### 稲永で現地調査してみた

	いなえ	いなえい
町名		稲永一〜五丁目、稲永新田
学校		稲永小学校
駅名		あおなみ線稲永駅
バス停	西稲永、稲永スポーツセンター	稲永小学校、稲永ふ頭、稲永町、稲永駅、稲永新田
公園	稲永公園、稲永東公園、稲永新田公園	
港湾施設	稲永ふ頭、稲永第二ふ頭	
公営住宅	稲永荘、新稲永荘、南稲永荘、西稲永荘	東稲永荘、東稲永シルバー住宅、中稲永荘、シティファミリー稲永、県営みなの稲永住宅
郵便局		稲永郵便局、西稲永郵便局
交差点名		稲永、西稲永
マンション		ポレスター稲永、宝マンション稲永
その他	稲永スポーツセンター	稲永眼科医局



### 名古屋地名物語 (同人誌『ちいさなあしあと』掲載分)

- |               |                 |                |
|---------------|-----------------|----------------|
| ① 鶴舞線は地獄行き？   | ② ツルマカツルマイカ     | ③ 万場の渡し        |
| ② 愛知郡が消滅する日   | ③ 古墳の里の開発       | ④ 御器所の物語       |
| ③ 桜通線は極楽行き？   | ④ 大曾根の盛衰        | ⑤ なごやの由来       |
| ④ 適当につけられた地名  | ⑤ 世島の変貌         | ⑥ 鏡から鏡になった味鏡   |
| ⑤ 藤原師長が残した地名  | ⑥ 小作争議が生んだ鳴海の開発 | ⑦ 笠寺台地の不思議     |
| ⑥ 熱田台地の亀      | ⑦ 軍需工場地帯だった熱田   | ⑧ 高針〜牧野池と垂炭の里〜 |
| ⑦ 東山線の池と山     | ⑧ 碁盤割の町名        | ⑨ 小田井人足の里      |
| ⑧ 地名になった土木技術者 | ⑨ 大須今昔          | ⑩ 「とみだ」か「とだ」か  |
| ⑨ 六番町のなぞ      | ⑩ 区名になった中川運河    | ⑪ 比良と洗堰        |
| ⑩ 矢田川の瀬替え     | ⑪ 二つの八事         | ⑫ 見どころの多い大森    |
| ⑪ 光が丘の秘密      | ⑫ 軍と歩いた守山・小幡    | ⑬ 荒子は観音と円空と利家  |
| ⑫ 羊と綿と紡績工場    | ⑬ 古渡村から金山へ      | ⑭ 相生山の不思議な寺    |
| ⑬ あのクサイ町はいま   | ⑭ 西へ伸びた円頓寺通     |                |
| ⑭ 工場地帯だった白壁町  | ⑮ 星崎は星の降る里だった   |                |
| ⑮ 豊臣秀吉ゆかりの地名  | ⑯ 延び続けた広小路      |                |
| ⑯ 道徳の都市計画     | ⑰ 名古屋の地名        |                |
| ⑰ 鍋屋町と鍋屋上野村   | ⑱ 下之一色の盛衰       |                |
| ⑱ 枇杷島はどこだ     | ⑲ 稲永の変転         |                |
| ⑲ 猪高村の激変      | ⑳ 広がった「尾頭」地名    |                |
| ⑳ 神話の里 大高今昔   | ㉑ 瑞穂台地の学校群      |                |

太字は『名古屋地名ものがたり』(2017年風媒社)に収録のもの